



小学校運動会（左：中条小、右：田沢小） ※P 5 で説明

子どもたちの「学び」と「育ち」の環境の向上を目指して

子育て教育部長 樋口幸宏

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針が、5月30日の定例教育委員会で正式に決定されました。

昨年7月、児童生徒の保護者や地域代表の方々に参画いただいた検討委員会に検討を諮問し、3回の学校視察と8回の会議を経て本年3月11日に答申をいただきました。

検討委員会では、「複式学級は早期に解消する必要がある」や「子どもたちにとって統合は早い方が良い」、また、「学校がなくなる地域の理解は得られるのか」など、様々な意見が交わされました。

すでに、地元新聞等にも掲載されたのでご承知の方も多いと思いますが、小学校は、複式学級の解消を目指して現在の18校を13校に、中学校は、クラス替えができる1学年2クラス以上を目指して10校を5校とする内容となっています。

教育委員会では、答申を基に協議を重ね、小学校の学区再編は、答申どおり令和3年度または4年度に、中学校は、パブリックコメント等の市民のご意見等も参考に、再編年度を答申の令和5年度を10年度に5年延伸する修正をして方針を最終決定しました。

今後は、関係する学校や保護者、地域の皆様への説明を重ねることとしています。

学校は、それぞれ長い歴史があり、長い間地域に支えられ、愛されて現在に至っています。学校の再編は、単に複数の学校を一つにまとめることでなく、相互の良いところを引き継ぎながら、新しい学校を創ることと考えています。

十日町市の小中一貫教育は本格実施後6年目を迎え、軌道に乗ってきたことを実感していますが、今後の学区再編により、区分けの見直しが必要となります。

十日町市は、合併して旧5市町村から歴史ある文化財や有名な観光施設などを数多く引き継ぎ、市民は多くの素晴らしい財産を持つことになりました。

学校区が統合により広がることも、これと同様の面があると考えています。ふるさと学習などで、より広い・より多くの地域の魅力を学ぶことができることにより、地域や郷土への愛着や誇りをより高められるものと考えています。

十日町市の子どもたちの「学び」と「育ち」の環境が、今後もさらに向上するよう、多くの皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

小中一貫教育

市内小中学校共通取組事項 「自己有用感」2年目



<共通取組事項>

- 中学校区小中一貫教育の取組活動及び各学校の教育活動に「自己有用感」を高める具体的指導（支援）を組み込む。

十日町市内小中学校の三つの課題の克服

令和元年度も、「自己有用感」に的を絞った共通取組事項を設定します。4月・5月と各中学校区訪問でも「自己有用感」を高める取組について、下記の資料を配布し説明を行いました。

- 2019年度 小中一貫教育市内小中学校共通取組事項について
 - 自己有用感を高めるために（平成30年10月25日）
 - <2018小中一貫教育 共通取組事項>「自己有用感」を高める日々の授業づくり～十日町市教育センター 学習指導班
 <2018小中一貫教育 共通取組事項>「自己有用感」を高める日々の授業づくり
 - 授業改善に向けた4つの視点～個を輝かせるフィードバック～十日町市教育センター 学習指導班
- ※ 上記資料は、職責別→01 学校間共通→03 小中一貫教育→20 研修関係資料→2019年度→「自己有用感資料フォルダ」の中にありますので、いつでも活用してください。

この4つの資料は、昨年度作成されたものですが、新年度の教育活動に当たり、「自己有用感」の捉えと「自己有用感」を高めるためにどのように取り組めばよいかを、全教職員で捉え直してほしいとの思いから配布しました。

今年度の各中学校区小中一貫教育グランドデザインや各学校のグランドデザインには「自己有用感」の位置付けが見られます。授業や活動の中で「絆づくり」「居場所づくり」の取組を計画、実施、振り返りの際に、気になる児童生徒に焦点を当てるなどしながら、「自己有用感」を高めることについて教職員間で気軽に話し合いをお願いします。まずは、教職員が児童生徒を見る目を高め、個々の児童生徒をよく理解することが大切です。

平成30年度「自己有用感」を高める具体的指導（支援）の実践例

昨年度、取組報告をいただいた学校の中から、一例を紹介します。

① 貝野小学校 『児童会主催：なんでも大会』

自己有用感を育てる観点から

<居場所づくり>

- ・児童会主催で強制ではなく参加したい子が発表する機会とする。
- ・子ども一人一人の持ち味を生かし、ダンスや音楽、コントなどの発表内容を決める。
- ・一見「くだらない」と思えるような内容でも認めるようにする。

<絆づくり>

- ・学年を超えた仲間同士で組むこともできるようにする。

工夫した指導（支援）の具体的内容

- ・子ども以外にも、職員（事務職員、管理員、調理員）も主催者・発表者・審査員などとして参加することで、学校全体で一体感をもてるようにする。

成果が見えた子どもの具体的姿

- ・日頃一人でいることの多かったA児は、自ら異学年の子を誘ってグループを作り発表した。その後、A児は教室でも仲間と関わろうとする様子が見られるようになった。
- ・一人一人の得意技を披露する場を設定できたことで、人数が少ない学級の中だけだと居場所が見付きづらいうちもつながりを見付けることができた。
- ・子どもたちと職員が一体となって活動を楽しむことができた。



② 吉田小学校 『縦割り班活動』

高学年がリーダーとしての経験を重ねる中で、低・中学年が親しみや尊敬の念を抱くように、児童の発想や創意を大切にしたい自治的・協働的な活動を展開する。

自己有用感を育てる観点から

<居場所づくり>

- ・全校 51 名を 6 班に分けた異学年集団の組織
- ・協働的な活動の設定 (ハイキング・サツマイモ栽培・プール開き・駅伝・雪像作り等)

<絆づくり>

- ・活動前の話し合い (相談タイム)
- ・班旗の制作
- ・活動後のメッセージ交換と掲示



工夫した指導 (支援) の具体的内容

- ・活動前にめあての設定について話し合い、活動後に互いのよかったところを認め合うメッセージを送り合う。
- ・一人一人に役割をもたせながら協働的に課題を解決する場面を仕組む。例えば、雪像作りでは、班ごとに雪像のデザインを考え、「雪像のどの部分を誰が担当するか」「準備物は誰が持ってくるか」などについて話し合うようにした。

成果が見えた子どもの具体的な姿

- ・高学年は低・中学年から慕われる存在になり、8 人程の中集団としての成熟が見られた。
- ・「相手に伝えたいこと」が明確になり、メッセージ記述の質・量・速さが向上した。

学力向上対策

第 1 回学力向上推進会議(5/10(金))より

小学校低学年の基礎学力の定着、U A 児童生徒に着目

各校の研究主任や学力向上担当の先生による、今年度最初の「学力向上推進会議」を行いました。市の学力状況については、平成 30 年度のデータを基に説明しました。市全体の傾向として、N R T 学力検査では、特に小学校低学年の基礎学力の定着が課題です。今年度の結果が届き次第速やかに、自校の状況を丁寧に分析し、自校の課題に即した方策を講じるようにお願いします。



また、U A (アンダー・アチーバー) の児童生徒に着目し、個別の支援についても検討することが大切です。

中学校区ごとのグループ協議では、小中一貫教育の共通取組事項「『自己有用感』を高める授業づくり」について、情報交換を行いました。感想の一部を紹介します。

【アンケートより】

- ★協議を通して各校の様子を知ることができた。学級経営が基盤になることを改めて感じた。
- ★子どもの得意なことや思いを大事にした主体的・対話的な姿を授業中に増やすこと、教職員の得意なことや個性を生かした学級経営の工夫に学ぶことが大切だと感じた。
- ★授業の中に「自己有用感を高めること」を求めると、「達成感」「認められたという思いを味わわせること」「仲間と一緒に活動できる喜び」などが大切だと思う。学習が「分かる、できる」と思わせる授業を仕組むことが教員の役割、と強く感じた。
- ★自己有用感とは、1 時間の授業公開では見取りにくいし、1 年で大きな結果を出すことも容易ではないと思う。やり方や方法を固定するのではなく、目的や子どもたちの未来の姿を共有し、教師それぞれの方法や手立てを試し、振り返り、有効なものやつながるものをつけていけるとよい。

キャリアアップ研修「サポート訪問」開講式(5/30(木))

支援します！ 若手教員の指導力向上



今年度体系を大きく変更した「キャリアアップ研修」が本格的にスタートしました。この「キャリアアップ研修」は、①サポート訪問、②中学校教科担当者会議、③小学校ミニ講座、④エキスパート教員研修の4つの柱で構成しています。昨年度までの「若手教員サポート研修」に当たるのが、①サポート訪問です。

今年度は、対象を教職経験2～10年目の先生にまで広げ、当該の先生や学校の実情に応じて、嘱託指導主事が内容や回数を調整しながら訪問・支援します。

サポート訪問の目的や研修内容はセンター要覧の通りですが、「経験の浅い先生方の指導力向上を支援し、不安や負担を軽減し、応援する」ことが最大の目的だと考えています。先生方一人お一人の指導力の向上こそが、子どもたちの学力向上などの課題解決への唯一の道です。

子どもの笑顔のために、ともに頑張りましょう！

エキスパート教員研修会① ～十日町小：西潟 浩子教諭～

苦手なものには理由がある！ 感覚統合を理解し対応することが大切

サポート訪問開講式に引き続き、今年度最初の「エキスパート教員研修会」を行いました。十日町小学校で発達障害通級指導教室を担当されている西潟浩子先生から、「通級指導を通常学級へ！遊びやエクササイズを通じた集団作り～感覚統合とソーシャル・スキルの視点から①～」と題して講義・演習をしていただきました。当日は津南町からの申込みを含めて100人を超える参加があり、特別支援教育に対する現場の関心の高さやニーズを改めて感じました。

- ★Aさんは、授業の45分間座ってられないんです…。
- ★Bさんは、友達に対する言葉や行動が荒くて、どう対応すれば…。
- ★時々保健室に行きたがるCさんを、教室に向かわせるにはどうすれば…。

など、参加者も思わず、自身が担当する子どもたちのことを思い浮かべるような具体的な場面をもとに、「**苦手なものには理由がある！**」と語る西潟先生。「感覚の使い方の崩れ」という視点で、事例を紹介いただきました。また、通級指導教室での指導場面を、参加者が実際に体を動かしながら体験することができました。参加者からは一様に大好評！まさに、「エキスパート教員の実践を広める」場になりました。



西潟先生による2回目の研修会は、9月5日(木)の予定です。また、もうお一方のエキスパート教員、松代中：中町初美先生による研修会の1回目は、6月5日(水)に行われました。次号で紹介します。(中町先生の2回目は未定)。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～6・7月～

日程	内容【会場】	備考
6月・7月	キッズ英語遊び塾 吉田小 6月21日(金)、7月12日(金) 鏡島小 6月14日(金) 馬場小 6月28日(金)、7月19日(金) 橘小 6月7日(金)、7月5日(金)	
6月・7月	外国語サポート訪問 松代小 6月19日(水) 吉田小 6月24日(月) 中条小 6月25日(火) 馬場小 7月4日(木)	
6月5日(水)	エキスパート教員研修 「合唱指導(上教大出前講座)」	講師: 松代中 中町初美教諭
6月12日(水)	特別支援教育コーディネーター研修	
6月13日(木)	学力向上専門監事業【津南中】	英語授業公開
6月13日(木)	中越・授業改善支援訪問【松代中】	道徳授業公開
6月14日(金)	プログラミング教育研修【千手小】	講師: 上越教育大 大森康正教授
6月18日(火)	新採用・若手事務職員研修【川西庁舎】	3年目までの事務職員が対象
6月24日(月)	中越・授業改善支援訪問【南中】	社会科授業公開
6月25日(火)	第一回就学支援委員会【川西庁舎】	就学支援委員、専門員、調査員
7月5日(金)	特別支援教育研修講座【千手コミセン】	講師: 新潟大学教育学部 長澤正樹教授 対象: 教職員、保育士ほか
7月5日(金)	プログラミング研修②【十日町中】	講師: 上越教育大 桐生徹教授
7月12日(金)	特別支援教育保護者研修会(ファミリー学習会)【川西庁舎】	講師: 白倉相談員、鈴木臨床心理士 対象: 保護者
7月16日(火)	プロに学ぶ～授業力向上研修①【川治小】	講師: 筑波大附小 青木伸生教諭
7月25日(木)	教育支援員研修会【川西庁舎】	講師: 白倉相談員 他 対象: 教育支援員
7月29日(月)	図書委員会サミット【情報館】	実践発表(東小・南中)、情報交換

【表紙写真の説明】

小学校にとって運動会は新年度が始まっての一大イベントです。また、小中の連携や地域とのつながりを深める大切な行事でもあります。中条小学校では「大の坂」を地域の大的坂保存会の方が生で歌い、保存会に参加する女の子が太鼓を打ち、保護者・地域の方も一緒に輪になって踊りました。田沢小学校では、「中里音頭」を保護者・地域の方、ボランティアに参加した多くの中学生も入って踊りました。小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組の成果の一つと感じました。